

令和元(2019)年度第1回多治見市生活支援体制整備推進会議議事録

日 時：令和元(2019)年6月19日(水)

10:00～11:30

場 所：多治見市役所 駅北庁舎4階会議室

出席： 高木浩二会長、浅野みな子副会長、森内佐和子委員、竹内寛委員、橋本誠委員、林計男委員、林正勝委員、各務晴夫委員、若尾卓男委員、松村三千代委員、西迫静隆委員、渡辺光城委員、田中信次委員、唐木頼子委員、羽根田真理子委員、水野磨意子委員、松岡由佳子委員、宮崎詩織委員、棚瀬民依委員、今井光春委員(順不同)

欠席： なし

事務局：山崎課長、三宅リーダー、野呂

次第

1. 新委員自己紹介
2. 会長選任
3. 第2層協議体の取り組みについて(資料1)
4. 生活支援フォーラムについて(資料2)
5. その他

| | |
|--------|---|
| 副会長 | この会議の会長が、人事異動により、委員の交代がございました。会長の選任までは、私が進行いたしますので、どうぞよろしくお願いいたします。それでは、開会にあたりまして、多治見市高齢福祉課長より一言お願いいたします。 |
| 高齢福祉課長 | 多治見市高齢福祉課長の山崎です。いつも大変お世話になっております。この、生活支援体制整備推進会議は平成30年度からスタートし、年2回開催をしております。市では第1層協議体において、生活支援コーディネーターを平成30年度から1名設置しております。地域資源の開発、ネットワークの構築など、国や市が進める地域包括ケアシステムが、非常に重要なことでもあります。第1層協議体にあわせ、今年度は第2層協議体を更に増やしていこうと思っております。皆様の御協力をいただきながら、持続可能な地域での支え合い体制づくりを進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。 |
| 副会長 | ありがとうございました。それでは、今回から委員になられた方がございます。それぞれ自己紹介をお願いいたします |
| 委員 | 大平地域包括支援センターで主任介護支援専門員をしております。よろしくお願いいたします。 |
| 委員 | 精華地域包括支援センターで保健師をしております。よろしくお願いいたします。 |
| 委員 | 社会福祉協議会の地域福祉課長です。どうぞ、よろしくお願いいたします。 |
| 副会長 | 続いて、次第2 会長の選任になります。会長は、委員の中から互選となっております |

す。皆様いかがいたしましょうか。

～意見なし～

事務局

事務局の提案といたしまして、多治見市社会福祉協議会の〇〇様に会長をお願いしないかと考えております。皆様、いかがでしょうか。

～異議なしの声～

副会長

ありがとうございます。

これからの進行は〇〇委員にお願いしたいと思います。

会長

会長のご指名いただきました〇〇でございます。皆様の御協力により会議がスムーズに進行することを、お願いしたいと思います。多治見市では、介護予防日常生活支援事業、いわゆる総合事業が始まって3年目を迎えます。昨今、住民主体とかコミュニティーという言葉が当たり前のようになり、使われる時代になっておりますが、これまで住民に対して公平にサービスを提供するという行政の役割が少し変わってきました。住民主体で活動される方々に協力し、支援することを求められる。総合事業はそういうことで、行政もなじみがなく、戸惑いがたくさんあると思います。地域の団体・市民団体等が、どれぐらいの距離感を持ちながらお互いに協働して、作り上げていくかということが、まだまだ手探りの状態でございます。そんな中、この地域生活支援コーディネーターを設置し、事業を進めております。この会議は生活支援体制整備要綱に基づいて、設置をされています。その中には生活支援コーディネーターの業務を補うという役割も持っております。また、既存の地域資源を把握しながら情報の見える化を進めるという役割も持っております。この会議が皆様にとって有意義な会議となるよう、貴重な御意見をいただき、コーディネーターの活動に役立てていきたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

それでは次第に従いまして3番目に入ります。第2層協議体の取り組みについて、生活支援コーディネーターから説明をいたします。

委員

資料1をご確認ください。昨年1年間コーディネーターとして取り組みしたなかで、市役所の担当者と何をすべきか一緒に考えてまいりました。まずは、地域のニーズを把握することから始めていこうということで、昨年は第1層、今年度は各小学校区単位で社会資源の把握に取り組みたいと考えております。

第2層協議体は、地域福祉協議会等と地域包括支援センター職員を含む会議で、地域の社会資源、ニーズ、生活支援課題とか自分たちでできることを話し合う場とする位置づけとなっております。話し合いの場といっても、何を話し合えばよいかとなりますので、きっかけとして、今回の内容をご提案させていただきました。

地域の現状を把握するために作成することですが、それを作るのが目的ではなく、話し合う場で困り事等の状況が見えてきます。今回は「住民主体の集いの場」「病院」「買い物場所」の社会資源を地図におとし、表にすることを提案いたします。

地図は地域包括支援センターで管理し、話し合いの場で使用してください。縮尺が細かいですが、大体の位置にシールを貼っていただいて、作業するときも議論をしながら、進めていただければと思います。表には、住所や電話番号。集いの場は名称、

場所、開催時間等の情報を記入していただきます。表は各地域包括支援センターにメールで送付いたしますので、その都度わかった時点で少しずつ記入してください。第2層協議体の話し合う内容のきっかけづくりとして、社会資源マップにて社会資源を把握していただくこととして使用していただけたらなと思っております。

会長 今説明いただきました第2層協議体の取り組みについて、皆様から御意見を伺いたいと思います。

委員 最終的には、ネットなどで見える化をされることが重要と思いますが、いかがですか。

委員 もっと先には、把握できた情報をネット配信等できるよう考えておりますが、今回はまず、ネット配信とまでは考えないで、マップの作成を行っていただこうと思っております。この後の議題にありますように、生活支援フォーラムを計画しております。そこで、このマップを展示しようと考えております。すぐに地域の皆さんから見えるという形ではないですが、段階を追ってネットなどで発信できる目標は持っておりますが、現段階では難しい状態でございます。

会長 今提案されました第2層協議体の取り組みについて、特に地域包括支援センターの職員の皆様方のご協力をいただかないとできないと思っておりますが、ご意見をお願いします。

委員 情報を得やすい地域と、そうでない地域とあり、全ての地域に関係づくりが構築できているわけではないので、心配な点はありますが、今年度からいろんな地域の会議に参加させていただいて情報を集めるという努力はしていきたいなと思っております。

委員 介護保険に該当しない方で、健康な方だけど生活の中で少し困っている部分の支援、電球を代えたりとか、困っている方に、地域のボランティアさんを紹介できたりとかできるといいと思いますので対応させていただきます。

委員 ふれあいねもとや30区の福祉委員会に参加して、地域の情報を収集しています。昨年度、地域から収集した情報をマップに落としましたが、今年度は30区の福祉委員会の会議で、改めて皆さんどこに買い物行くか、どこの病院に行くかなどのアンケートをとりました。私たちが知らなかった集いの場や、病院、買い物は市外に行くという情報もありましたので、今回の取組でさらに、新たな場所等を教えていただきます。地域包括支援センターよりも、地域の方が細かな情報を持っていると思いますので、地域福祉協議会の方たちにも御協力いただきたいと思っております。

委員 当地域包括支援センターでは市之倉地域と笠原地域の二つの地域を担当していますが、どちらの地域も、買い物する場所や、ひまわりサロン等を一覧表にして、独自に落とし込んでいます。しかし、問題はその情報の精度です。実際に利用すると、費用が掛かったりすることもあると思っております。地域包括支援センターが知らない情報もありますので、今後、地域福祉協議会での会議に参加させていただきます。

委員 精華地区は以前からマップに落としていますが、集いの場とか、困っていることを、この取り組みを通して、情報を集めたいと思っております。

- 委員 当地域包括支援センターでは、北栄地域福祉協議会の推進会議に出席し、これからも連携を進めていきます。地域の方と接する中で、ごみ出しと買い物が、重要とお聞きしております。介護人材が足りなくなっている今、地域住民の助け合いでできることは何かあるか、相談しながら、進めたいと思っております。
- 委員 コンビニなどでは、1000円以上の買い物をすれば配達する仕組みがあると聞いています。そのような情報をお伝えできるといいと思っております。
- 会長 地域包括支援センターから意見をいただきました。第2層協議体の取組の中で地域包括支援センターとしても、取り組んでいきたいとのご意見だと思っております。また、地域でご活躍されてみえます各地域福祉協議会にとって、この協議体のマップ作りの取り組みについては、いかがでしょうか。
- 委員 地域福祉協議会で、いろんな相談を受けていますが、生活支援コーディネーターから指摘されたように、情報を分けてということは頭にありませんでした。住民の方はどう困っているかは、今後、すごく必要と思いましたので地域包括支援センターと情報収集していきます。ただ、その中で、ボランティアの受け手が、偏ってしまい広がりが無いので、そういう人的なマップづくりも必要ではないかなと思ったところで
- 委員 私たちの地域では、憩いの場ではいろいろな場所で開催しているので、マップに落とすことは可能ですが、買い物についてはこの地域だけではできない状態で、生協とかバロー等に買い物に行くのですが、買い物に行くのが不便であるため移送サービスをしている経緯はあります。そういう意味からすると、マップにするのは自分の校区内だけにするのではなく、自分の校区を中心として、憩いの場は校区内、それ以外については、改めてどこに買い物に行っているのか調べるのも価値があると思っております。いろいろな場でそういう機会を見つけて買い物をどこでされているか、データを集めてみたいと思いました。病院については、あらゆるところに移送支援で、データも持っているの、この三つでは買い物についてはやってみたいと思いました。
- 委員 買物に困っている人というのは、場所だけでなく、どのように調達しているかも聞き取りをしたほうが良いと思います。
- 委員 私たちの地域では、サロン活動は出来ていますので、あまり必要ないと思います。4・5年前から地域包括支援センターが、業者を含め、すでにリストアップされていますが、精度アップすることは必要かと思っております。
- 委員 我々は今何をしようとしているのか、地域包括ケアシステムはいったい何なのか、議論の中では多いです。
- 委員 特別な福祉に関する買い物の場所というのは必要だと思います。この地域ではトライアングルバスを利用して、買物で必要な場合はこのバスを使用していると思っておりますが、すぐに欲しい場合はご近所の方が用立てしてくれている人は多くいます。
- 委員 2025年問題にあるように、今後いったいどうなるのか、非常に危惧しています。2025年までに準備しなければいけないことを、理解して準備期間も含め、取り組んでいきます。

ある区では集会所の前にこの家は一人暮らしであるとか、貼ってありまして、そういう困難者、生活支援が必要な方のマップを公に宣言していたことが重要であると思いました。それを事実やっているところが、あるのでびっくりした。

委員
委員

買い物の中に、お弁当を配達してくれる業者も入れていただいても良いです。

マップの作成は地域でそれぞれの課題があると思いますが、今年度は目の前のことを、ひとつずつやっっていこうと思っております。1年かけて何が必要かという事を、検討したいと思っております。マップの作成についてはできますが、ここに関わった人たちが、今後他の事でも関わるかと思うので、繋がりを考えながらやろうと思いません。福祉と防災、地域によっては同じ人がやっているところもあります。その点も含め、我々に何が必要かという事が、マップの作成によってできると思いません。

委員

現在このマップを作ることは、いいことだと思っております。地域での助け合い支援について、市民の意見を聞くことはいいことなので、実施していこうかと思っております。

委員

第2層協議体において、マップ作成は地域包括支援センターに助言いただきながら、住民主体の集いの場を落とすことはできます。しかし、買い物と病院については生活に必需していますので、私たちよりも、本人自身が知っているのではないかと思います。地域福祉協議会もお手伝いします。

ある地域包括支援センター圏域での、生活支援者をオープンしていると聞きましたが、どのように進めたのか、興味があります。個人情報の取扱いはどのようにしているのか一度聞きたいのですが。

委員

何年も前から、毎年、福祉委員と民生委員が集まった際に、民生委員では把握できていない人もいるということで、把握しておきたい方の位置に目印をしてマップに落としています。この人は施設に入ったよとか、この人まだ家にいるよとか、最近一人暮らしになっちゃったよとか、近くの方のほうがよく知っているというところもあり、民生委員との情報共有をしています。長い間実施されているので、始まった時点での個人情報の取扱いや、どういう流れで始まったかは分かりません。

委員

何かあったら助けてほしいけど個人情報は出たくない。そこが難しいところです。個人の情報は、本人が納得すれば解決できることなので、本人同意をするしかないです。少し結論が見えてきたと思いますが、私たちの地域は多治見市N o 1の高齢化地域ですから、あと5年もしたら2人に一人が高齢者となりますので、非常に興味深かったのですが、この地域には、支援が必要な方いますというような情報を載せているのですか。

委員

長い間実施していて、非常時に助け合いができるようにみんなで情報を共有しています。見守りが必要か、そうでないかを確認しています。

委員

誰にも見えるという形にしたのはすばらしい。

委員

私の知人の地域では、福祉委員を5年以上やっているところが多いです。やりたい人がやって、長期間活動できている。短期間の活動では、高齢者等の情報を把握できた時点で次に引き継がないといけなくなってしまう。

委員 その地域の民生委員はチームワークがいいよね。

委員 民生委員と福祉委員の会合がある際に地域福祉協議会も参加しているのですか。

委員 地域福祉協議会はない地域です。

委員 山に例えると、民生委員、福祉委員、地域福祉協議会もあって、登り口がみんな違うだけです。目的はみな一緒だと思います。

委員 私たちの地域福祉協議会も出来て3年が経ちます。民生委員、福祉委員、社会福祉協議会、地域福祉協議会が毎年集まって、高齢者などをどう把握して、どう支援するか、市から以前は独居高齢者の名簿も無かったが、現在は地域の民生委員の会長が持っていて、必要な場合に民生委員間で情報共有出来ている。個人情報取扱いはとても慎重にしないといけない、情報の出し方、もらい方をどうしたらよいか。

委員 だから、すごいですよ。防災も高齢者も一緒です。

委員 私が住んでいる区は、防災を主とした町籍簿を2年に1回作っていて、町内会長と区長が持っています。基本的に独居であるとか。生年月日も書いてありますので、何歳かも把握できます。

委員 町籍簿の情報として、独居かどうか、生年月日は普通です。それを、マップに入れるのがすごいと思います。ある地域では町籍簿を金庫に入れている。それでは名簿としての機能を果たせない。何かあってからでは遅い。災害の時に、すぐに出すことができなければいけない。多治見市が個人情報取扱指針を出せば問題は解決するのではないか。

高齢福祉課長 個人情報の取扱いについては我々も難しい問題と考えております。これは個人的な見解ですけれども、本人同意をとることが、全てではないかと思っております。市で指針を出すのは難しいと感じております。

委員 私たちの地域福祉協議は3年が経ちました。我々は地域コラボを作り始めて、関係機関の話を聞いています。昨年は高齢福祉課に住民主体のサービスについての意見交換をしました。ゴミ出しと買い物支援をできればとっていて、買い物はこの地域の3つの区で補助金をもらい、今年から移送支援事業を実施しています。地域福祉協議会の費用負担なしで、できるようになりました。病院とかの関係もありますが、まず買い物移送支援を行うことに決めました。

委員 3つの区から移送支援の取りまとめを依頼されています。なぜかという自治会は毎年役員が変わるため、恒久的に継続するには地域福祉協議会しかないと思って実施しています。そこで、地域包括支援センターと個人情報の取扱いについても話し合いました。今実施しておく5年10年先の福祉に繋がると思いつつ、見える化のマップ作りも一つ一つ段階を経ていくのではないかと考えております。その中で多治見市、社会福祉協議会、自治会の連携が進んでいけたらと思います。

会長 この地域マップをきっかけとして、地域の困り事とか問題等の意見等が出てくるかと思っております。今でもいろんな問題が出てきておりますので、この会議で検討することになります。是非進めていきたいと思っております。よろしく願いいたします。先ほどのリストの買い物場所については、店舗だけではなく、配達してくれる店舗な

ども含めていくという事になります。

続いて次第の4に移ります。生活支援フォーラムについて森内委員より説明をお願いいたします。

委員

たじみ地域支え合いフォーラム開催要綱案となっております。市民の皆様にも支え合いという活動を広く知っていただきたい、意識を高めていただきたいという目的で、フォーラムを開催したいと思います。日時は11月16日の土曜日、午後1時30分から、この駅北庁舎4階大ホールで講演会、活動発表を計画しております。対象の方は一般市民の方、サロンや生活支援活動を行っている方、興味のある方に広く呼びかけます。最大150人程度が入れるので、100人程度という事で、考えております。内容につきましては、地域支え合い活動の事例という事で、サロン活動と生活支援活動の事例発表をさせていただきます。そのあとに基調講演として、ご近所クリエイターの酒井保氏をお招きして、多治見市の実情を踏まえたお話をさせていただきます。題目は「地域での支え合い活動を進めるために」～住み慣れた地域で自分らしく安心して暮らす～で今後、講師と詰めていきます。展示部門におきまして、地域ごとにマップを作ったものを、13校区マップを展示し、来場者に見てもらい、ご意見もいただこうと思っております。

あわせて、生活支援の活動紹介や、ひまわりサロンの写真なども紹介したいと思っております。主催は多治見市、講演を社会福祉協議会、協力として多治見市生活支援体制整備推進会議と思っております。

広報については、市広報を11月号、チラシやポスターも制作して10月ごろに配布していきたいと思っております。チラシの配布先として、地域福祉協議会、民生委員、ひまわりサロン、関係機関にも配布して、広く周知させていただきたいと思っております。以上を提案させていただきます。

会長
委員

生活支援フォーラムについてご意見伺いたいと思っておりますが。

昨年と今年に可児市で、この講師が所属している全国コミュニティサポートセンターの講師を呼びましたが、可児市のアールで開催したが、300人の会場で立見席が出るほど盛況でした。収容人数の心配と、駐車場の心配もございまして。近隣の駐車場も借りていたようです。今年の開催では、多くないと思っていたが、それでも200人くらいは来場したという事で、100名程度でこれだけ広報すると、そこが心配しております。最大駐車場は100台確保しておかないと大変になると思っておりますので、そのあたりを市役所ではどのようにされるのかなと思っております。

委員
委員
委員

推定人数を読めていなかったもので、再度会場の空き状況も踏まえ、検討いたします。

事前に申し込み制ですか

今は予定していなかったのですが、人数制限もあるので、この点についても検討させていただきます。

会長
委員

もう一度再考していただけてください。他はよろしいでしょうか。

私も心配しておりましたが、全国で講演されており、名前も有名な方なので、セラミックパーク MINO とか考えてはどうかと思っております。

会長 日程は確定ですので、会場についてはもう一度事務局で再考していただきますようお願いいたします。その他いかがでしょうか

委員 当団体のチラシを配布させていただきました。記念の置時計の件がとても印象的に残りましたので、案内できればと思います。置時計が故障して、修理を頼まれまして、多治見市にも時計屋はあった思い、ネット検索して問合せをしたのですが、どこも修理をしてくれるところはありませんでした。壊れたらあきらめれば言いとか、次買えばいいで済むようなことですが、記念の置時計の一言が気になって、団体に所属しているメンバーに以前時計屋に勤めていた方がおり、何とか直すことができました。あきらめて生きていくよりは、ちょっと発して何とかなるのではないかと思って生きていくほうが、地域で生き生きして生きるという事が高齢者の望みというかになるのではないかなと思って紹介させていただきました。

事務局 先ほど地域支え合いフォーラムですがまた皆様のところにも協力を得たいと思いますのでよろしくお願いします。第2回の会議ですけど、2月を予定になっております。また詳細等決まりましたら、御連絡させていただきますので、よろしくお願いいたします。以上です。

会長 皆様、本当にありがとうございました。これで散会させていただきます。